■研修講座一覧表（管理職）

○ 研修の表記については、 対面・集合型 対面・集合型/オンライン オンライン（同時双方向型） オンライン（オンデマンド型） を示しています。

○ 旅費の欄に＊印の付いている研修講座は教育研究所で旅費を負担します。

育成指標 ◎主たる関連					【小学校・中学校・高等学校・特別支援学校】	講座番号	対象	旅費
求められる資質や能力	基礎的素養	マネジメント力	情報分析活用力	調整力	キャリアステージ ： 管理職（充実期） マネジメント力の向上			
		◎			新任校長研修講座	24PJ611	対象者	
		◎			校長研修講座	24PJ631	対象者	
		◎			子どもの自殺予防（小学校管理職）研修講座	24PJ601	対象者	
			◎		副校長・教頭研修	24PJ641	対象者	
				◎	新任副校長・教頭研修	24PJ621	対象者	
		◎			特別の教育課程編成研修講座	24PJ843	教員管理職	

育成指標 ◎主たる関連				【幼稚園等】	講座番号	対象	旅費
教職に必要な素養	保育力	指導力	幼児への対応	ICT等の利活用	キャリアステージ ： 管理職（充実期） マネジメント力の向上			
◎					園長研修講座	24PJ651	対象者	

※育成指標の標記について
・「幼児への対応」・・・「特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応」
・「ICT等の利活用」・・・「ICTや情報・教育データの利活用」

■研修講座一覧表（幼稚園等）

○ 研修の表記については、 対面・集合型 対面・集合型/オンライン オンライン（同時双方向型） オンライン（オンデマンド型） を示しています。

○ 対象校種の「幼」は、幼保連携型認定こども園も参加が可能です。ただし、幼稚園等新規採用教員研修講座及び幼稚園中堅教諭等資質向上研修講座は除きます。

○ 旅費の欄に＊印の付いている研修講座は教育研究所で旅費を負担します。

○ キャリアステージはあくまでも目安であり、自分の経験年数や立場を考慮し、自己の課題に応じて受講することができます。

○ 育成指標の標記について
●素養・・・教職に必要な素養　●保育力　●指導力　●幼児への対応・・・特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応　●ICT等の利活用・・・ICTや情報・教育データの利活用

育成指標 ◎主たる関連					キャリアステージ				講座番号	対象	旅費
求められる資質や能力	素養	保育力	指導力	幼児への対応	ICT等の利活用	基礎形成期	基礎定着期	伸長期	充実期			
	◎	◎	◎	◎	◎	幼稚園等新規採用教員研修				24PJ201	対象者	
		◎						幼稚園中堅研修 専門研修<プログラム1>		24PJ441	対象者	
	◎							幼稚園中堅研修 専門研修<プログラム2>		24PJ442	対象者	
			◎					幼稚園中堅研修 専門研修<プログラム3>		24PJ443	対象者	
	◎						絵本のひみつ研修講座			24PJ832	教職員	
	◎						男女共同参画社会の実現に向けて研修講座			24PJ834	教職員	
	◎							生活科（幼小接続）研修講座		24PJ751	教員	
			◎			森林環境教育 森とふれあい、森を知ろう				24PJ783	教職員	＊
			◎			生活科（授業づくり）研修講座				24PJ753	教員	
			◎				いのちの教育プログラム研修講座			24PJ755	教職員	
			◎				森林環境教育「自然素材を楽しむ、自然を考える」研修講座			24PJ782	教職員	＊
				◎		事例から学ぶ子供の虐待防止に関する研修講座				24PJ824	教職員	
				◎		ちょっと学びタイム（特別支援教育コーディネーター）研修講座				24PJ867	教員	
				◎			学校教育相談ベーシック研修講座			24PJ821	教員	
				◎			子どもの心のケア（不登校）研修講座			24PJ826	教職員	
				◎			子どものSOSに気づく、応えるための研修講座			24PJ831	教職員	
				◎			いじめ等問題行動等及び不登校の見立てと支援に関する研修講座			24PJ825	教員	
				◎				子どもの心のケア（思春期）研修講座		24PJ827	教職員	
				◎				子どもの心のケア（精神医学）研修講座		24PJ828	教職員	
				◎				インクルーシブ教育システム推進研修講座		24PJ849	教員	
				◎				アセスメントを生かした指導・支援の在り方研修講座1		24PJ844	教職員	
				◎				アセスメントを生かした指導・支援の在り方研修講座2		24PJ845	教職員	
					◎	クラウドベース県域公用アカウント活用講座				24PJ811	教職員	

(4) 研修の評価

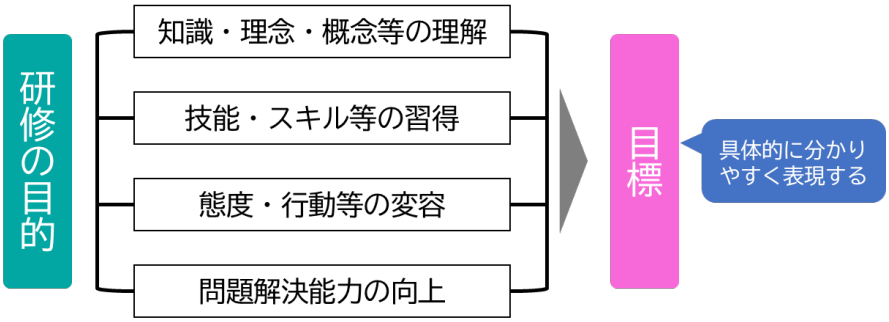
ア　研修の目的・目標の設定の視点

研修は、「研究」と「修養」の両面からなっており、「研究」は、教育的知見の獲得を目指す知的、論理的活動であり、「修養」は、人格を磨くこと、精神を鍛える活動です。

研修は、教職員一人一人が学習指導や学級経営等、様々な面においてスキルアップを図ると同時に、一人一人の子どもの望ましい変容を促すことをねらいとして教職員が行う活動であり、教職員の生命線です。したがって、教職員研修の目的は、教職員の変容であり、その先の子どもたちの成長・発達と言えます。

教職員研修の基本方針及び上記のことを踏まえて、県教育委員会が行う研修の目的を、「子どもの変容をもたらすか」、「一人一人の教職員が自己変革でき、教育実践の改善に生かされるか」という視点を基に、「知識・理念・概念等の理解」、「技能・スキル等の習得」、「態度・行動等の変容」、「問題解決能力の向上」の四つの観点に整理します。

また、研修の目標については、それぞれの研修講座において、研修後に受講者がどのようになることを目指すのかを「具体的な行動目標（～ができる等）」として明確化します。



イ　研修の評価の目的

研修の評価とは、評価基準が設定された目標に対して到達度を見るものです。実施される研修は業務に役立つものであり、研修の結果身に付いたことを受講者が学校等で生かせるものである必要があります。そのため、研修主催者は、研修の目的・目標が達成されたか、受講者にとって実際に役立つ研修であったか、また、今後実施する研修がよりよい研修となるためにはどのように研修を企画すればよいのか等を把握することが大切です。そこで、県教育委員会では次の三つを研修の評価の目的として設定します。

・学校の教育課題などのニーズを踏まえつつ、奈良県教育が目指す方向性と合致しているかを判断する。
・研修体系の課題を抽出し、改善を図る。
・研修講座の継続の是非を判断する。

ウ　研修の評価の方法

研修講座の適切な機会に、受講者に対してアンケートを実施します。アンケートは、受講者のニーズを把握するとともに、受講目的・所定の評価基準が設定された目標の到達度、研修内容の妥当性、実践に生かす意欲及び成果達成度について調査することとし、研修講座の評価とともに、受講者がリフレクションできるものとします。

エ　研修主催者による研修の評価

研修目的・目標の到達度については、研修時の観察や受講者のアンケートなどを基に研修主催者も評価します。

受講者によるアンケートの評価及び研修主催者の評価を基に、課題や改善点を抽出するとともに、

次年度の計画に生かします。その際、評価結果が所定の基準を満たさない研修については、研修の目的、研修スタイル、講師などの内容を大幅に見直す等の対象とします。

オ　奈良県立教育研究所の研修に関する事業の評価

これまで、奈良県立教育研究所では研修受講後に実施する受講者への振り返りアンケートを以て個々の研修講座の評価を行ってきました。しかしながら、この方法だけで受講者等のニーズを把握し、研修の効果を適切に検証できたとは言い切れず、より効果的な研修について考えていかなければいけません。

そこで、今後、研修を受講した教職員がそれぞれ学んだことをどのように実践に生かすことができているのか、またそれがどのように教職員の変容をもたらす効果があるのか等について把握する工夫をし、研修の効果を適切に検証するよう取り組んでいきます。